

# ろくに休めない会社

## 振り回される労働者

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。九州でも各県で感染が拡大しており、福岡県では陽性者数が連日1万人を超える事態となつています。JR九州でも社員の感染が拡大しており、乗務員が不足しています。そこで会社は元乗務員を訓練し、100名程度の確保を目指すと言いました。しかし、**要員の逼迫は感染拡大前から発生していたものです。**

会社は春のダイヤ見直しで、効率化に伴う268名の要員削減を行いました。要員に余裕ができません。新卒の採用見送り、200名規模の戦略的出向に充当されました。ワンマン路線を拡大し、九州3県で車掌職場廃止を行う秋には151名の効率化を行う予定で、さらなる出向も計画しているようです。

また昨年度は298名と多くの社員が離職を選択しています。ポナスの削減は黒字転換を達成した今期も続き4期連続。鉄道事業は目に見えて縮小傾向。そのうえ合理化により、社員一人当たりの責任、業務量は年を追うごとに拡大しています。若年層の退職は現在も毎月のように発生しています。将来を不安視するのも無理はありません。

今年度より、嘱託再雇用者の特別休日が増え、年間で120日程度の休みが保証されましたが、1年は52週で週休2日であれば104日、祝日16日を足せば120日となるため、土・日・祝日休みという水準に達したというだけの話です。またこれに伴う要員の追加はなぜかなし。再雇用社員も含め、休日呼び出しが頻発し、代休を与えない休日労働の超勤処理も当たり前。年休は取れない事態が常態化し、各種休暇申請もしづらい雰囲気があるとの声が聞かれています。加えて各種発表会など、超勤を評価する企業風土も相変わらずです。

**春先の段階で経営側は「コロナは底を脱したと思う」と考え、これら無理な合理化を実施してきたわけですから、感染が拡大し、要員が逼迫している現状はむしろ当然の帰結です。その尻拭いを現場の労働者に押し付けているのだから目も当てられません。「日本一元気な会社」を目指しているようですが、入社数年で見切りをつけられている会社はどこにその要素があるのでしょうか？**

《JR 各社夏季手当回答》

会社名	2022年夏季手当	ベースアップ	業績予想	予想修正値	純利益
九州	1.64	無し	129億円	98億円	132億円
北海道	1.60	500円	△146億円	—	△10億円
貨物	1.72	基本給×0.1	49億円	△900万円	△14億円
四国	1.75	無し	△57億円	—	△52億円
東海	2.20	無し	900億円	△300億円	△519億円
東日本	2.30	無し	360億円	△1600億円	△949億円
西日本	1.34 (+5万円)	無し	30億円	△1165億円	△1131億円



第165号  
2022年8月1日  
発 責 国労九州本部  
住 所 博多区博多駅東3丁目9  
番3号ニコウハイツ 1003号